



日本国際飢餓対策機構(Japan International Food for the Hungry: 略して JIFH)は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体(NGO)です。1981年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、人材育成、海外スタッフ派遣、飢餓啓発などに活動を広げてきました。現在は、国際飢餓対策機構連合(Food for the Hungry International Federation)の一員として、20ヶ国60の協力団体とともに、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、現地パートナーと協力しあって、「こころからだの飢餓」に応える働きをしています。

1分間に17人(内12人が子ども)
1日に2万5,000人
1年間では約1,000万人が
飢えのために生命を失っています。



支えられて300号!

飢餓対策ニュース

わたしから始める、世界が変わる



ネパール緊急支援(3頁に記事)

ネパール募金は、郵便振替00170-9-68590(一財)日本国際飢餓対策機構「ネパール」と明記、又はウェブサイトで

2015年世界食料デーのテーマ決定

生まれてきたのは、生きるため

…あなたの愛の手がその子のいのちを救います…

当機構は今年も国連が制定した「世界食料デー(10月16日)」の啓発活動を日本各地で行います。2015年の開催テーマ「生まれてきたのは、生きるため」は、飢餓、貧困、また紛争や搾取によって苦しむ「子どもたち」が自分自身は生きるために生まれてきたと信じられるように、希望をもって生きていくことができるように、という願いがこめられています。

9~11月にかけて各地で開催される食料デー大会(6月現在で19会場で計画)では、飢餓啓発の講演、現地駐在員の報告(今年はフィリピン)、音楽ゲスト(親善大使やその他)の演奏などを通じて、世界の現状を知るとともに、私たちにできることを考えます。

世界食料デーでは募金活動も行われ、今年もアフリカの学校給食、フィリピンの教育支援、パキスタン女子教育他に募金があてられます。各大会はどなたでも参加できます。また、大会以外でも募金をご協力いただけますので、詳しくは東京事務所又は各事務所にお問い合わせください。

刺繍ポーチでネパール支援

ノクシカタ(バングラデシュの伝統的刺繍)

①ハンドパス 1,500円(写真③)

18cm×13cm

色:キナリ、黒

②ポーチ 2,000円

23cm×23cm

色:キナリ、黒

※各希望色をご指定ください。

合計3,000円以上お求めで送料無料(1箇所)

1件毎に300円をネパール支援として JIFH に寄付します。

【お問合せ】 株式会社キングダムビジネス
〒540-0026 大阪市中央区内本町1-4-12NPOビル402
TEL:06-6755-4877 FAX:06-6755-4888

ネパール緊急支援活動を報告

～森祐理さんのラジオ番組に吉田スタッフが出演～

ネパール緊急支援のために現地に派遣した吉田知基スタッフが、森祐理さん(当機構親善大使)のラジオ番組「モリユリのこころのメロディ」(ラジオ関西558kHz)にゲスト出演し、被災地の様子や活動報告をします。放送日は、7月3日(金)午後9時(30分番組)。*野球放送延長時は9時10分から。

同番組は、昨年10月にスタート。森さんの語りかけるようなお話や懐かしい童謡や唱歌、讃美歌などで着実にリスナーの輪が広がっています。なお、放送終了後、モリユリオフィシャルサイトhttp://www.moriyuri.comから聴くこともできます。ぜひお聴きください。



ハンガーゼロ サポーターを大募集中!!

現在... 31955口

今すぐ 各種支援のお申し込みができます!!

●まず右の必要事項に記入して、点線の枠部分を切り取りハガキに貼って、下記の大阪事務所宛に郵送、又はこの頁をコピーして、ファクシミリで申し込みください。確認のための必要書類を送らせていただきます。お電話でも申し込みできます。各事務所までおかけ下さい。

- ハンガーゼロ・サポーターとして協力します。 毎月()口 (1口1,000円)
- チャイルド・サポーター(世界里親会)になりたいので説明書(申込書)を送ってください。
- 海外スタッフ・サポーターとして協力します。 毎月()口 (1口1,000円)
- JIFHサポーターとして協力します。 毎月()口 (1口500円)
- 今回に限り()円協力します。
- 郵便自動引落し申込書を送って下さい。
- その他の銀行自動引落し申込書を送って下さい。

フリガナ 氏名: _____ 男・女

〒 _____

フリガナ 住所: _____

..... (電話)

▼申込日: _____年 月 日▼NL 299号

FAX・072-920-2155

- 大阪 〒581-0032 八尾市弓削町3-74-1 TEL(072)920-2225 FAX(072)920-2155
- 東京 〒101-0062 千代田区神田駿河台2-1 OCCビル517号室 TEL(03)3518-0781 FAX(03)3518-0782
- 東北 〒980-0012 仙台市青葉区錦町1-13-6エマオ2階E TEL(022)217-4611 FAX(022)217-6651
- 愛知 [新住所] 〒460-0012 名古屋市中区千代田2-19-16千代田ビル3F TEL(052)265-7101 FAX(052)265-7132
- 広島 〒730-0036 広島市中区袋町4-8 CLCボックス2F TEL(082)546-9036 FAX(082)546-9037
- 沖縄 〒900-0033 那覇市久米2-25-8 メゾンズ米202号 TEL(098)943-9215 FAX(098)943-9216
- USA Ainote International c/o Mr. Takehiko Fujikawa 8010 Phaeton Dr. Oakland, CA94605 TEL(510)568-4939 FAX(510)293-0940

毎月、飢餓対策ニュースを皆様にお届けするにあたり、ひばり障害者作業所(八尾市)、生活愛護関西地区のボランティアの皆様が送付作業のご協力をいただいております。

「一粒の種」を蒔く人を育む支援

日本国際飢餓対策機構 広報主任 鶴浦弘敏

このほど国連食糧農業機関(FAO)が「世界の食料不安の現状2015年報告」をまとめ、世界の飢餓人口が7億9,500万人と発表しました。アジア太平洋地域で栄養不足人口の割合を削減させるミレニアム開発目標(MDGs)が達成されたことは「歴史的な成果、画期的な出来事である」と述べています。さらに「飢餓半減の目標を概ね達成したことは、まさに我々の世代で飢餓の惨劇を終わらせることを示している」(FAO事務局長)とし、これからは飢餓撲滅が目標と明言しました。

国連統計については、それぞれの国家が把握していない部分があるとの慎重な見方もあります。しかし、大切なことは、飢餓人口が減少に向かう中で、今もなお8億人が栄養不足に苦しんでいるという事実を、驚きと悲しみをもって心に刻むことです。飢餓は終わっていません。異常気象に加え世界各地で紛争とテロが続く中では、貧困も飢餓も続くのです。

先の国連発表で注目すべき指摘がありました。「飢餓のない世界を達成するために、非常に大切なことは家族経営の小規模農家を支援すること」これまで飢餓対策ニュースで報告してきましたコンゴ民主共和国の元国内避難民パメラさんの農業プロジェクトの取り組みは、まさに

その方向を示唆しています。当機構がハンガーゼロ・アフリカを実現するためのカギとしてきた、ビジョン・オブ・コミュニティ(VOC=地域変革のビジョン)が、コンゴのプエトでパメラさんたちを通して、目に見える成果となってきています。

喜ぶべきことは農業プロジェクトで確かな収穫が得られたことだけではありません。その喜びの輪の中に、再定住したパメラさんたち国内避難民だけでなく、以前からその地域で暮らしていた人々が加わり始めていることです。これこそがVOCが目指す地域変革です。

VOCの提唱者であるFHIフェデレーションのランディー・ホーグ総裁は「開発途上国では大規模プロジェクトよりもむしろ小規模、すなわち小さな種から始めることが、持続可能な社会の実現へとつながる」と述べています。どんな植物も最初は小さな種から始まる、その種の成長をそこで暮らす人々が自ら体験することが最良のアプローチとなり地域の変革となっていきます。JIFHは、これからも「一粒の種」を蒔く人を支えていきます。その先にならず飢餓のない世界が広がることを信じて。

「一粒の種が地に落ちれば...豊かな実を結ぶ」(聖書)

■発行者 岩橋竜介

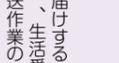
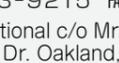
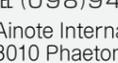
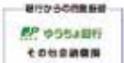
■発行所 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構



Webサイトアドレス http://www.jifh.org/
eメールアドレス general@jifh.org
フェイスブック https://www.facebook.com/hungerzero

■募金方法 ※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウェブサイト

- 郵便振替 00170-9-68590 / 日本国際飢餓対策機構
- 他の金融機関からの自動振替 ●クレジット、デジタルコンビニ



かざして募金

「かざして募金」はスマートフォンからご利用できます。募金は、ソフトバンクモバイル(株)経由となります。詳しくはウェブサイトをご覧ください。

ブルンジからルワンダへの避難民を支援

国際飢餓対策機構ルワンダからレポート



2万人以上の避難民が集まるマハマ難民キャンプ（ルワンダ南部）

アフリカ中部の国ブルンジでは、大統領の任期は憲法で2期までと決められていますが、2005年の内戦終結の年から大統領を務めているピエール・ンクルンジザ氏が6月26日の大統領選挙に3期目の立候補をしています。与党は「ンクルンジザ氏は2005年には議会によって選出されたので、民選大統領としてもう1期可能だ」として同氏を候補者に指名しました。これに対して現大統領の3期目は違憲だとして反対勢力が抗議行動を起こしてきました。

ンクルンジザ大統領は抗議行動を弾圧し、反対派を投獄、抗議グループと軍、警察との衝突で40名が死亡、10万人が国外に避難しました。人々はJIFHが支援しているルワンダ、コンゴ民主共和国などにも逃れ始め、6月18日現在、

ルワンダ国内のブルンジ避難民は33,684人で男性8,367人、女性7,919人、子ども16,309人です。

大統領選は延期も…

これまでに、カトリック教会が現大統領の立候補を支持しないという立場を表明し、東アフリカ圏の首脳はンクルンジザ大統領の国民の弾圧に対し注意を促し、停止を求める声明を発表しました。現在大統領選は7月15日に延期されていますが、現大統領が立候補を取りやめることはないと言っています。

ルワンダ国内の避難民の状況

FHルワンダは現地政府や国連と連携し、ルワンダ南部にあるマハマ難民キャンプ（約23,000人が滞在）で次のような支援を行っています。



避難民への聞き取り調査



現場では国連やNGOとの合同会議

います。

食料：ソルガム、大豆、メイズ粉
生活用品：毛布、洗面器、水用タンク、バケツ、鍋、皿、食器、生理ナプキンなど。

他からの支援が届きにくい、5歳以上の子どもと妊婦の保護、また難民キャンプでの感染症予防のために清潔な水源の確保と衛生教育も予定されています。

JIFHも支援に協力します
難民の半数以上が女性、子どもです。ハンガーゼロ・サポーター（10千円/月）となって、ご協力をお願いいたします。



避難生活では、とくに子どもと女性にとって厳しいものとなる

ネパール大地震・被災者緊急支援



5月13日から支援活動のために現地を訪問していた当機構の吉田は、韓国国際飢餓対策機構（KFHI）他さまざまな団体と協力して、パンの缶詰、テント、洗剤、薬、米、塩などの支援をすると共に、被災された人々が何を必要としているのか情報収集に努めてきました。

孤立状態で困窮する山間部の人々

カトマンズ市内の避難所で、山間部（ラスワ地域）から逃れてきた人々の話から、その地域の周辺には小さな集落が多数あるが支援物資が十分届いておらず、取り残されている人々がいることを知りました。同じ避難所で、そのラスワ地域の被害状況を調査訪問されるという浅原明男さん（ヒマラヤトレッキングサバナ代表）と出会いました。浅原さんは、「山間部の人たちは、家の崩壊で電気がなくなり、唯一のコミュニケーションツールである携帯電話も使えず、互いに連絡ができなくて困っておられるでしょう。普段私たちがヒマラヤトレッキングや登山の際にとっても重宝しているソーラーランタン（写真④）を配ってあげたい」と話されました。

ソーラーランタンが大活躍

ソーラーランタンは、防滴機能があり、これから始まる雨季でも、僅かな太陽光で発電ができ、夜間の電灯だけではなく、



山間部で支援を続ける浅原さん

携帯電話の充電にも十分使えるということです。支援物資の情報や緊急時の連絡に大いに役立つと聞き、早速JIFHも配布に協力することになりました。ソーラーランタンを受け取られた方々が最初にしたことは、携帯電話の充電でした。知人の安否を人伝ではなく、自分で確認を取ることができて喜んでおられました。携帯に撮りためていた家族の写真を見ながら、涙を流す人もいました。また度重なる余震も灯りがあると眠れる、とのことでした。

ネパールはこれからモンスーン（夏の季節風による雨季）の時期に入ります。家の再建がまだできていない状態でこの時期を乗り越えることができるのか、人々は不安の中を過ごしています。大雨が降ればヘリは使えませんし、インフラが十分整っていない陸路での輸送も困難になります。



現地は雨季に入り被災者の負担がさらに増えています

学校の早期再開のために

もう一つネパールの子もたちを脅かしているのが人身売買の問題です。被災家族のテント生活が続く中、この震災の混乱に乗じて、子どもたちが連れ去られ売られていくのです。しかし予防策としては何よりも学校が早く再開することですが、訪問したシンドウバ



ルチョークの学校（生徒数500～600人）のように再開の目途が立たず、住民に不安と不満が広がっているのが現状です。JIFHは他団体と協力して学校建設の費用を支援しています。

また現地パートナーと協力、連携しながら、引き続き必要な支援をしていきます。皆様のご協力をよろしくお願い致します。

報告：吉田知基

● **ネパール募金ご報告** ●
6月15日現在で800万円が寄せられました。心より感謝いたします！

募金は…郵便振替00170-9-68590（一財）日本国際飢餓対策機構「ネパール」と明記、ウェブからも募金可

※7月3日（金）森親善大使のラジオ番組で吉田知基のネパール報告が放送されます。（最終面に記事）



世界里親会 カンボジア里子訪問ツアーに参加して

2015年5月、アンロンベン地区の支援終了式典に出席、里子訪問のためにカンボジアへ行って参りました。「私たちいつも一緒にいて共に歩いてくれたNGO団体はFHだけでした。私たちは幸せです。これからは教わったことを自分たちの力だけで実践していけます。」「学校大好き!」笑顔と自信に満ちて感謝や決意を語る人々の姿から、支援活動によって実った希望をはっきりと見ることができました。(引率：山田香菜)

私の里子に会って…

懸命に生きるたくましさ

●平和の君教会 山下朋彦
まさか私たち夫婦がカンボジアの地に立てるなんて。まして里子に出会えるなんて!これが正直な



感想です。私の奉仕する日本キリスト改革派・平和の君教会はとても小さな教会です。7年前に、皆でカンボジアの貧しい子どもたちを支援しようと決めました。そして昨年、その里子の住む村の自立支援は終了しました。蒸し暑く、

生水は厳禁、疫病の恐れや、体力の不安等、躊躇は多分にありました。けれどもそれらの心配・犠牲に比して余りある大きな喜び・恵みが与えられました。なによりもカンボジアのほんの一部ですが、風土や歴史、人々の生活に生で触れ体験できたことは人生の貴重な宝です。

特に地方(農村部)では子どもたちの置かれている環境は厳しく、家は貧しく不衛生で、一旦雨が降ると道路や畑はドロだらけになります。そうした中、懸命に生きる子どもたちのたくましさや、現実がどれほど過酷であっても夢を追いかけることを止めない真剣さに頭が下がります。里子のボロアス・コアンさん(17歳)も「将来ドクターになりたい」と夢を語ってくれました。また現地のスタッフの方々のご苦勞も聞くことができました。毎日バイクで事務所から30分の里子の住む村まで行って励ましを

し、私たち里親への深い愛情や信頼を育んで下さっていることも知ることができました。

●山下宣子
絵がとっても得意で家の様子や周りの自然を豊かに描いてくれたボロアス・コアンちゃんによく会えて、とても嬉しいです。妹さんと弟さんの3人で出迎えてくれました。やしの実のジュースも美味しかったです。

オンリーワンを再認識

●豊田悦子
今回訪ねたファイリちゃんは17才の女の子でトゥールトゥベン村に住んでいます。

7年前に支援が始まった当時彼女は10才でした。手紙は最初は母国語でしたが、3年ほど前から英語で近況や夢なども書いてくるようになりました。カンボジアに着いた次の日、長い間夢見ていた彼女の家を訪問しました。車が到着

支援が子どもだけでなく、地域の人々にとって意味のあるものであることを実感しました

し何人か家の人が駆け寄ってきてくれた中に、7年間成長を追ってきたファイリちゃんがありました。会った瞬間は感動で言葉はです涙がでできました。

彼女は英語が堪能で普通に会話できるのですがこちらの英語力が彼女についていけず、また聞き



たいこともいっぱいあったのに頭が真っ白になってしまい質問を紙に書いていけばよかったと後悔しました。彼女のお母さんも家族もとても喜んでくれ本当に行ってもよかったと心から思いました。ファイリちゃんが「会いたくなった時はあなたや家族の写真を見ていた」というのを聞き、私にとって彼女は何人かいる里子の一人だったけれど、里子にとって私たちはたった1人の里親なんだと気づかされました。神様が私たちをオンリーワンとして見てくださっているのに、私は里子たちをオンリーワンとして見ていなかったことに気づかされました。

その日の午後、クロージングセレモニーに参加しました。何人かの村人がFHがしてくれたことに対する感謝の言葉を述べ、子どもたちは歌や踊りを披露してくれ

ました。

最終日、うだるような暑さの中アンコールワットを見学し、午後から次の支援地スバイルー地区の子どもクラブを見学に行きました。そこの子供たちは支援終了の村の子より衛生状態も悪く、貧しい様子で7年前のファイリちゃんはこんなふうだったのかと感慨深いものがありました。その地区の里子の家を1軒訪問したのですが、家にはごみが落ちていたり子どもの服もかなり汚れてました。個人差もあると思いますが、支援終了地区の家と比べるとその差は歴然としていました。

鉛筆を2本もらって喜んで家路につく子どもたちを見て本当にかわいいと思い、この子たちの未来を少しでも明るくするお手伝いをしたいと心から思う旅でした。

新しい支援地を見て

●川島 祈

私は里親をしていた家族の代表として参加させていただきました。最初に訪れたトゥールサラ村では村の人が経営している小さなお店に案内されました。そこでは片足を失った男性と出会いました。この近辺に住む50~60代の男性の多くが戦時中の地雷によって片足をなくしているそうです。カンボジアの歴史的背景と、日本では感じられない戦争というものを身近に感じました。

支援が終了した村では、村をあげて感謝のセレモニーが開かれ、大勢の人々から暖かい笑顔で迎えられました。そこでは何人の方々が、支援を通しての生活や経



済面での変化を語ってくださいましたが、自分たちの支援がこの地域の人々にとって非常に意味のあるものであったことを実感しました。

私たちの里子とその家族にも会うことができました。小柄でシャイな子でしたが彼の家は、清潔感があって建物もしっかりしているように見受けられました。私たち家族は日々彼のために祈ってきたので、こうして祈ってきたことが形になっている様を目にして嬉しかったです。

最後にこれから支援を開始する地域に赴きました。現地のスタッフ主催の子ども集會が行われており、多くの子どもたちの笑顔が溢れていました。しかしよく見ると、栄養不足か髪が茶色がかっていたり、皮膚の一部が黒くなっている子が多く、周囲の環境も支援が終了した地域と比べて清潔感に欠けていました。

この旅を通して、カンボジアの現状を目と肌で実際に感じるというすばらしい体験ができました。同時に、支援を必要としている地域がまだまだたくさんあるということも感じました。この日本での生活に心から感謝し、そして途上国に住む人々のために、これまで以上に日々祈っていきたく思います。

アジア、アフリカ、南米で支援を待つ子どもが600人以上います。チャイルドサポーターとなって応援してください。

カンボジア スバイルー地区の活動が2年目に入りました。ぜひ支援活動にご協力ください。

ラテンアメリカの人々とともに

中米・グアテマラ女性会(注1)は、2013年度に国内で一日当たり9人の女性が殺害されたとの統計を発表し、その数は増加の一途をたどっているという報道がありました。

ボリビア政府は2013年5月に女性の権利を保障・促進する法律、“暴力から解放された人生”(注2)を制定し大規模なキャンペーンを開始しましたが、それにもかかわらず同年7月から2014年1月の7ヵ月間に21,000件の女性に対する暴力事件が報告され、女性に対する暴力・虐待・殺害の割合は減少するどころか10%も増加しています。

絶えない女性への暴力

私が以前4年以上住んでいたキヤコヨ地域でも頻りに女性へのレイプや殺人事件が起こっており、気を許せる地域など無い状態です。それは男尊女卑(マチズモ)の考えと社会構造が今も殆ど変わっていないため、それゆえに男性が妻や子ども、娘たちを残酷なまでの家庭内暴力で日々虐待し死に至らせることも日常茶飯事として起こり、また家庭内外を問わず男性から女性への精神的・性的虐待、暴力、殺人などが横行しているからなのです。

男性も女性も、神様の目には誰もが等しく尊い存在であり、いたわり合い愛し合うべきだということを真の意味で知り、日々そのように生きていく

変わるものとは 変わらないもの



ボリビア多民族国 駐在 小西小百合



とが今まさに求められているのだと強く感じています。

現在FHボリビアでは、各支援地域において毎年“ファミリーミーティング”を開催しています。これは地域の夫婦が対象で子どもも参加でき、そこで神様が定められた正しい夫婦関係やコミュニケーション促進の学び、そして“カップルゲーム”などを通してお互いが言葉と態度で相手に思いやりと感謝を表し、また共に楽しんで夫婦の絆を深めるというものです。ボリビアの男性はなかなか自分の妻に対して感謝の表現をしないものですが、昨年は参加者全員の前で夫たちが妻たちに対して一輪の花を贈り、キスと抱擁をして感謝の言葉を述べるシーンがありました。ある男性は”こういうことをしたのは初めてだ!“と言い、お互いに照れながらも楽しく、また有意義な学びの時を過ごしました。

現状の世界を見る時に問題が大きすぎて自分には何もできないと感じる時がありますが、私たちはまず自分の目の前にいる一人、一組の夫婦、一つの地域の人々に関わることから始めることができるのだと考えています。そしてラテンアメリカの男性たちの心の目が開かれて、貧しさの中でも女性や子どもを愛し隣人を大切にいく社会が実現するように願っています。

「夫たちよ。妻が女性であって、自分よりも弱い器だということをわきまえて妻とともに生活し、いのちの恵みとともに受け継ぐ者として尊敬なさい。」聖書

(注1) Grupo de Guatemalateca de Mujeres
(注2) “Ley Integral para garantizar a las mujeres una Vida Libre de Violencia”

連載第一回は06月号(2016年)に掲載。ウェブサイトに転載はできません。

ケニア 学校給食支援



栄養不足をおぎなう給食

コイノニア教育センターは、キューナ教会の働きの一つとして2003年1月にオープンしました。教会から徒歩15分のところにあるキバガレ・スラムに居住する子ども、青年、大人たちが貧困の中から希望をもって意欲的に、生活向上のために取り組むことを助け、共に新しいコミュニティ作りを推進することを目指しています。

学校教育だけでなく、職業訓練、保健衛生教育の機会を提供しながら、そこに参加する人々との生活を通して、愛をもって助け合い協力し合う関係を育てることが最重要だと思っています。

社会に貢献できるように

4歳からの幼稚部(2年間)、小中高校12年間の一貫教育を提供し、キリスト教信仰に基づく全人格的教育を行い、人々に奉仕する人材を育てることが目標です。現在85名の在籍です。一人一人の生徒が神さ

貢献できる人財となるために必要な知識、技術を身につける訓練の機会を提供します。

カリキュラムは、英語、数学、理科、社会、聖書を主要科目として、先生が一方向的に教えるのではなく、自分で学習計画を立て、実施し、評価をしながら学びます。そのことを通し日々地道に努力すること、人生に対しても義務と責任を果たしてゆくことを学びます。コンピューターを使ったITの授業も小学科から必修です。

また、主要科目のほかに体育、音楽、舞踊、美術などの情操教育に

日替わりメニューが実現

学校生活の中心には、生徒、先生が共にダイニング・ルームでいただく食事の時間があります。朝の snack、昼食、午後の snack は生徒たちにとって最も大切、不可欠の時間です。その日食べるものがない貧困家庭で生まれ育った生徒たちにとって不足している栄養素を十分含んだ給食は、彼らの知能と基礎体力を高め、成長を大いに助けています。このことを可能にしてくださっているのが日本国際飢餓対策機構からの食料支援です。そのおかげでメニューは日替わりの料理を提供できるようになりました。このメニューが生徒たちの何よりの楽しみ、自慢で、コイノニアの何が好きかと聞かれると、一番に「ランチ!」と答えます。

研修にコイノニアを訪れる他校の先生たちも「コイノニアのランチは素晴らしい!」と絶賛です。生徒たちが心身ともに成長を遂げていることを可能にしてくださっている日本国際飢餓対策機構の愛の食料支援に心より感謝申し上げます。

報告: 市橋隆雄(牧師)



給食前には感謝の祈り。市橋氏(黒の上下服)

まから愛されていることを体験し素晴らしい可能性が用意されていることを日々の学校生活の中で伝えます。また、生徒たちの社会性、道徳観、霊的な成長を助け、社会に

も力を入れています。また、基礎洋裁技術、料理のクラスもあります。一人一人が定期的にカウンセラーとの面談を持ち、心のケアも行っています。

子どもたちの給食支援のために「ハンガーゼロサポーター」となってくださいませんか。月10千円から(8頁に案内)